

外国人住民の結婚と出生

— 「兵庫県豊岡市の外国人住民に関する調査研究」 を用いて —

Foreign Marriage and Birth: Using “Research on Foreign Residents in Toyooka City, Hyogo Prefecture”

平井晶子 (神戸大学)

Hirai Shoko (Kobe University)

hirai@penguin.kobe-u.ac.jp

I. 問題設定

日本に居住する外国人住民は年々増加している。しかし、外国人住民は国籍も在留資格も多様化しており、加えて、地域差も大きいことから、彼らの人口学的特徴については基本的なことさえ十分に把握できているとはいいがたい。本報告では、兵庫県豊岡市を対象に、外国人住民の世帯構成や婚姻状況、子ども数など、基本属性の定量的把握をめざす。その際、出身国にいる配偶者や子どもを含め考察する点に本報告の特徴がある。

II. 資料

本報告では、豊岡市と神戸大学が 2019 年度に実施した「兵庫県豊岡市の外国人住民に関する調査研究」により収集した資料の一部を用いる。2019 年 3 月に住民登録のある 18 歳以上の外国人住民 (全 702 名) へのアンケート調査 (有効回収 272 票、回収率 39%)、ならびに聞き取り調査から得られた資料をおもに使用する。

III. 分析と結果

上述の資料をもとに、性別・在留資格・国籍に留意しながら世帯構成、婚姻状況、子ども数を分析する。(全体的な特徴についてはここでは省略するが) 新たな知見としては、(1) 技能実習など滞在年数に制限のある「短期ビザ」の男性は、20 代・未婚で子どもがいないケースが大半を占めるが、「短期ビザ」の女性では、出身国に子どもがいるケースが 2 割であること、(2) 近年、増加が著しいのは長期間在留可能な「定住者」ビザを持つフィリピン人男性であり、彼らは同国人の妻や子ども (ときには親やきょうだい) と暮らしていること、が明らかになった。

10 年前、地方社会に暮らす外国人の多くは国際結婚の妻であった。しかし、現在は国籍も在留資格も世帯構成も多様化している。「2019 年の豊岡市」の多様な実態を明らかにすることで、「生活者」である外国人住民との共生を考える基礎情報を提供できるものと考えられる。